クラスメイトと一緒に、極寒の地・ハルビンへ行きました。

九大生が案内する
世界のキャンパス

留学先大学

中国人民大学

（中国）

経済学部・3年　梶原 朋子（かじはら ともこ）

留学したいと漠然と考えていた頃、正直中国に留学するなどとは思ってもいませんでした。ところが、大学で第二外国語として中国語を勉強し始め、その面白さと難しさの両方を感じ、「中国語をマスターしてやる！」という思いで、留学先を思い切って中国に決めました。

中国人民大学では、「対外漢語学院」という留学生向けのコースで、中国語を勉強します。私のクラスメイトは、アジア・ヨーロッパ・アフリカなど出身は様々で、みんなの共通語は中国語でした。授業は、基本的に午前中だけなので、午後は中国人と相互学習をしたり、クラスメイトと遊びに繰り出したりしていました。

中国では3日～1週間程度の祝日が多かったので、私はその度に友達と一緒に旅行へでかけました。中国はなんといっても広いので、日本ではあまり知られていない世界遺産や観光名所が沢山あります。各地域の料理や方言、文化財に触れるたびに、中国の広大さを実感しました。地方によっては訛りが激しいところもあり、四苦八苦しながら意思疎通をはかるのも、大変ですが面白かったです。

この留学を通して多様な文化や考え方に触れ、自分自身の視野を広げたり、日本をいつもとは違った視点から見つめ直したりすることができました。

今、少しでも留学に興味のある方、九州大学の交換留学制度を利用して、思い切って一歩を踏み出してみてはいかがですか。きっと、日本では味わえないであろう、刺激的で密度の濃い毎日を送ることができると思います。

歓迎パーティーにて、日本語学科の学生とともに。（左端が筆者）

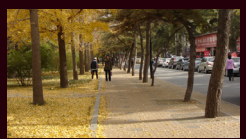
大学の特色

明徳楼

中国人民大学は、北京市の西北部にあり大学が集中する地区の中心にある。人文科学、社会科学、経済学と管理科学に力を入れている総合大学であり、中国の重点大学10校のうちの一つとなっている。

国際学術交流にも積極的で、日本、韓国、イギリス、フランス、アメリカ、カナダ、オーストラリアなど30カ国余り・80校にも上る大学と学術交流関係を結んでいる。九州大学経済学部・学府と中国人民大学・経済学院との間には、かつての部局間交流協定を基盤として、現在は、九州大学経済学府への指定校推薦制度での特別入試枠を設けている。また、2009年からは共同教育プログラムである、ダブルディグリー制度を実施している。

外国語学院・日本語学科があり、日本へ興味を持つ中国人学生も多い。更には、「レンギ会」と呼ばれる日本人留学生会があり、また、学外には九大北京事務所が徒歩圏内にあるため、安心して留学生活を送ることができる。



秋は、北京で一番過ごしやすい季節。学内のイチョウがきれいに色づきます。

交換留学について詳しく知りたい方は、「九大生のための海外留学情報」（http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/）をご覧ください。
過去の交換留学生による報告書も大学毎にたくさん掲載しています。